

次年度の民俗誌 古代から限界集落へ

当村最後の土葬 (1)

平林 叔子 (円重寺)

1 「ケツプリした」といった婆

わたしが、年老いた近所の婆に遇ったのは昭和 45 年頃です。その婆は当時 80 才位でした。婆は私に向かっての一言「あの姉子(あねこ)ケツプリした」が気になり、家に帰り姑に聞いた事がありました。姑は明治 45 年生まれ、61 才の頃の話です。姑は、「足出して、スカートハイッタ女子(おなご)ば見たのは、初めてなんだなア」といったんだ、とのこと。「ケツプリした」といった婆(ケツプリ婆)さんはおはぐろを付けていた。A 氏に聞いた話では、いつごろまでであったか、近くの集落にはお歯黒をつけていた婆達がいたという。A 氏の祖母も、毎朝必ず指先でお歯黒を付けていたという。

2 当村最後の土葬 ケツプリ婆

ケツプリ婆は昭和 50 年頃に土葬で埋葬された事を知った。この婆が当村最後の土葬となった。その時の土葬の様子を聞き取り、また、納棺から土葬のやり方を見た経験をもつ 4 名の古老からの聞き取りである。

(1) 土葬の順序

①遺体の処理

遺体の腹を押して、汚物を出来るだけ出す。その後に詰め物をして尻に厚い敷物をする。野辺送り(座棺)のため、汚物が出ないようにしたのである。

②入棺

葬送に立ち会う者はみな男衆の仕事であった。遺体を処理する前に、全員がフンドシ姿でそれも新しい布のフンドシであった。

入棺は屈葬である。婆の遺体の硬直が進まないうちに、両膝を胸まで引き寄せ、頭を両膝の間に入る程に下向きにする。縄を

